

Q 1. (各地域づくり協議会での説明時にあった質問)

公民連携 (PPP) について、「公」は当然、市のことだが、「民」は誰のことを想定しているか？具体的に聞かせてほしい。

A 1.

地元の民間事業者で一般社団法人を設立することを考えている。大変ありがたいことに、東京井波会や同郷会の皆様方からも、地域に貢献できることがあれば手伝いたい、と言っていており、実現に向けて進めていくことになれば、東京井波会や同郷会の皆様方にもお願いしていくことになると思っている。

また、この一般社団法人については、公民連携の中で、庁舎の運営だけでなく、まちづくり検討会議からの提言でも挙げている、公共交通を始めとする地域課題についても、網羅しながら運営していければ良いと思っている。

Q 2. (各地域づくり協議会での説明時にあった質問)

市では、公共施設削減と言っている中で、この計画案は市の方針と整合が取れているのか？

A 2.

市では公共施設の面積を半分にしなければならない、と言っているが、その理由は、現在の公共施設を全て運営していくには、莫大な維持管理費が必要になることからであるが、先日開催された、市の公共施設再編計画改訂の説明会で、必ずしも民間に譲渡するだけでなく、市で所有しても維持管理費がかからない方法であれば、理解が得られるのではないか、という考えもある、ということだった。市に迷惑を掛けない方向で市の施設を使用していく、ということは十分にあり得ると思っているところ。

Q 3①.

井波のまちなかに、このような施設が出来れば、賑わうだろうと感じた。非常に理想的なビジョン。しかし、その一方で、市内の他の地域とのバランス、市として、1つの地域にコストをかけることが許されるのか？井波だけが発展するというようなプランであれば、他の地域は納得出来ないだろう。だとすれば、井波を拠点に、南砺市全域にその相乗効果を波及させていくような施設である、と打ち出すことが必要だと思う。

A 3①.

市としてこの施設をどのように活用していくのか、という視点の中で、地域間のネットワークも考えた上で提案していく必要があるだろう。仰るような視点を取り入れていくことが、持続可能な施設につながっていくと思うので、そのような視点で、もう少し肉付けをした上で、さらに深く検討し、最終的に仕上げていかなければならないと思っている。

井波だけではなく、旧4町にそれぞれ庁舎があり、それぞれの地域において活性化の方針を検討され、平成30年12月には市長へ提言している。説明会の冒頭に、井波地域のあり方についてのボールは井波にあって、皆さんの了解がそれなりに得られれば井波の総意として、市にボールを返したい、と話したが、市では、各8地域の連携を考えながら、市に戻ってきたボールがどうなるか検討に入ることになるだろう。そして、市で検討したボールが再度井波に投げられた時には、井波では今回のように皆さんと話をしながら、最終的なものにしたいと思っている。

Q 3②.

より広域的な視点を取り入れてほしいということで、例えば、井波には宿泊施設がなかったり、温泉がなかったり、といった課題がある一方で、ちょっと足を延ばせば、庄川には宿泊施設があり、温泉や銭湯もある。物理的には決して遠くないが、行政区画という厚い壁がある。この案のように民間が活用するのであれば、行政区画の壁は超えても差し支えないのではないかと考えると、そこも極力連携して、地域全体が潤うことを検討すべきでは。そして、その地域についても、行政区画で区切るよりも、例えば、ある一定の範囲や交通網などのネットワークの中で、南砺に限らず、近隣の砺波や小矢部などあらゆる資源を集約して活用する拠点となるようなイメージで描いてほしい。創り出す、維持していく、ということには相当なエネルギーが必要で、それらを誰かにやってほしいという思いは、井波のみんなが潜在的に持っていると思う。それを、「俺たちがやるぞ！」という意気込みを示していけたら良いのではないだろうか。ぜひ応援したいと思っているが、細かいところで、どんな機能を入れていくかという検討は必要だと思う。

A 3②.

行政区画を越えて連携することは非常に大事なこと。行政も、既に、砺波広域圏や高岡、氷見、射水を含めた呉西圏域など、市域を越えた広い範囲で様々な連携を行っているところであり、その点も十分に勘案しながら進めるべきだと思っている。

また、宿泊施設について、庄川は観光目的のお客様を対象としているので、宿泊単価が高くても泊まっていただけるケースと伺っている。一方、今回の案の場合、ものづくりを中長期的に行いたいという人をターゲットに、比較的安価に宿泊所を提供して、ものづくりをしていただくという内容なので、使用目的が明らかに異なるため、庄川との差別化は図られるかと。既存施設と似たようなものばかり作っていてもダメだと思うが、その辺りは市にボールを返して、市の方で検討していただければ良いのではないかと考えている。

Q 4.

今回の提案内容は、非常に素晴らしく、井波に生まれ育った者としてはありがたく、また未来が見えると感じていたところ。是非とも実現に向けて頑張っていたいただきたいと思う、また、行政にも、実現に向けた支援を期待している。この提案は、井波地域を良くするための新たな拠点のイメージもすごく沸いた。庁舎の跡地だけに関わらず、現存の商業施設や観光施設などとも連携するようなソフト事業を盛り込んでいただきたい。

A 4.

同じような機能がいくつもあっても、同じエリアの中で足を引っ張り合うことにもなり兼ねないので、互いに良さを生かしたような、つながりや面的な取組について、まちプロでも考えていたところである。彫刻と言っても、庁舎の場合は、従来の彫刻のイメージとは違う、新しく、また違う感性のものづくりの場をイメージしている。そういった意味においても、いなみ木彫りの里やショッピングセンターアスモなどの既存施設とのすみ分け、あるいは、それらの良さを生かしながらの連携をしないと意味がないことは、常々考えていた。そのような実現に向けても、皆様のお知恵をいただきながら内容を深めていきたい。

市内8地域それぞれに、素晴らしい伝統文化や観光資源を有している。いかにして、南砺市を訪れた観光客にそれぞれの資源を巡ってもらえるのか、商工観光関係の皆さんとも連携しながら、各地域

でいろいろと取組んでいるところであるが、今後も、市内の各資源との連携を増しながら、行政の担当課とも連携していく、という方針は変わらないので、これからもその方針でいきたいと思っている。

Q 5 ①.

非常に楽しい、良い方向性を打ち出していただいたと思う。スケジュール的なものを見てみると、今年の4月からスタートするような表現になっていたが、地域づくり協議会から市へ提言されて、市で内容を揉んで、その後進められるというイメージで認識している。既に4月も過ぎているので、今後の進め方について、スキームとロードマップがどのようになってくるのか教えてほしい。

A 5 ①.

この施設を、どうやって運営していくのかという基礎づくりを、地域の方との合意を図りながら進めていくということを踏まえた上でのスキームなのだろうと認識している。「作って終わり」になってしまわないように、井波の地域の皆さんが「自分事」として、この施設をどうやって良いものにしていこうか、と思えるような組織や運営スタイルを考えていく必要がある。これまでも出資を募っての組織作りがあっただろうし、例えばJリーグ等のサポーター制度のようなものを作って、「他人事じゃないよ」という仕組みについても、他のスケジュールと同時進行のような形で、時間を有効に使いながら検討していく必要があるだろうと思っている。

Q 5 ②.

市内8地域がそれぞれに良さを発揮して、それが市として1つにまとめれば良いと思っているが、8地域の良さやエゴを上手く活用していく方向性にしていただければよいのではないだろうか。そのためにも、ロードマップであったり、スキームであったりを、住民の皆さんにも明確にして、今回の提案が今後どのように進められていくのかを、示していただきたいと思う。そうしないと、これまでのやり方と何ら変わることなく物事が進められることになってしまう。

A 5 ②.

市内8地域がそれぞれに素晴らしいので、互いに連携していくということや、井波の独自性を出してはどうか、というご意見もある。当然、木彫刻から始まった地域なので、他所の真似出来ない点や、全国でも特異な地域であるので、そういうところをグンと伸ばしていく形にする必要はあると思う。ロードマップについては、市民の方にしっかりと分かりやすく説明して、何年後かにはこんな風になるんだということを理解していただく必要はあるだろう。

スケジュール感について。今回、地域住民の皆さんに対して、いなみ まちプロで井波庁舎利活用構想案を取りまとめて周知いただいた。それを受けて、市内部で、この構想案に基づいてどのような進め方をすれば良いかを含めた事業検討を始める、というところが、今後の作業になっていくかと思われる。今回ご提示いただいているスケジュールについては、現時点で既に遅れており、半年ほどの遅れは出るだろうと想定している。

また、ご提案の中にあつた「サウンディング型市場調査」については、民間事業者の意向を伺いながら、井波庁舎の活用のあり方を検討していく、という点について、それ相応の予算付けが必要になるが、民間事業者の意向を短期間にヒヤリングするだけで市の方針を決めるというものでもないことから、例えば「民間事業者からはこのような提案が出されたが、地域のご意見はこうでしたよね」と地域と市とで考えをすり合わせながら、キャッチボールをするようなイメージで丁寧に進めていきたいと考えている。

Q 6.

構想案のベースを変えることなく、屋内農場や養殖池などの機能を加えてもらって、更なる庁舎活用の可能性を模索してもらえば良いと思った。特色ある地域の高校とも連携する、という部分で、もう1歩進んだアイデアで活用の可能性を広げてもらえば良いのではないかと？

A 6.

私は、ベッドアンドクラフトという宿泊施設を経営しているが、その経験の中で、1週間程度であれば空き家をお借りすることも可能だが、2～3週間という中長期的な滞在となると借りられるような物件がなかなか見つからない、という現実がある。将来の長期的な住まいにつながるような「お試し居住」とした使い方をしていただけるような施設としても考えている。その中で、例えば、1か月の滞在を通して、地域の方と顔なじみになり、オーナーの理解が得られて移住につながれば、と考えている。

また、先ほどの説明では「アトリエ付き」と言ったが、それは自由な形で使っていただければと思う。仰るように、自由な空間で、新たな創造を生み出せるような形でチャレンジしていただく。そして、最終的には、空いている商店や住居をリノベーションして、店舗やオフィスとして長く商売をしていただくきっかけの1つになれば、と思っている。

現在、市内には、城端地域に「お試し居住」出来る物件があるが、井波地域にはないので、このような物件として活用していただければ、とも思っている。

仰ったアイデアで例えるならば、何か施設で野菜を作りたい、と言った時に、その担い手となるための準備をする目的でこの施設を活用していただくことも可能なのではないかと。人をここで生み出せる、というのが井波としての、この施設としての価値だろうと思っている。「やりたいけど、どうやってやるのか？誰がやるのか？」「やりたい人たちがここに集って、こういうことをやってみようか？この施設を使おうか？」ということにつながれば、尚更良いのかなと思っている。そのような人たちがどんどんこの施設に興味を持っていただければ非常に良いと思いながら、この構想案を作っていたのは事実である。

事業としての将来性が見込める、と判断出来れば、そのような可能性もあるだろう。スペースも十分にあるし、例えば、噴水を養殖池にしようか、など、アイデアとしてあれば良いのかなと思うが、サウンディング市場調査は、ある程度のある考え方を持った上での調査になるのではないかと、というイメージを持っている。

R2.7.30(木)

いなみまちプロと 井波地域の住民の皆々との意見交換会

◆質疑応答◆

Q. 公民連携 (PPP) について、
(公 - 市役所
民 - ? ← 誰?? 具体的に教えて!)

→ 一般社団法人 etc と設立して
取組んでいきたい。 地元の民間事業者
地域課題について 網羅しながら運営したい。

Q. 公共施設削減という市の方針
と整合が取れているのか?

→ 市の手出しがたないのであれば、
差し支えないのであれば。 市有であっても
市に迷惑をかける方向で、市の施設
を使用していく、ということでは十分にあり得
ると思っている。

Q. ① 他地域とのバランス
井波を拠点に波及効果の
あるプランが良いのでは。
ある

② 地域全体、行政区画に拘らず、
太いネットワークをあらゆる資源を活用
していくようなプランがあると良いのでは、

→ ① 井波を拠点とした視点、
② ネットワークを活用していく視点 } 必要
おっしゃるような視点で更なる検討を
深めたい。

→ ① 改めて市からボールが返された際には
その点 etc もふまえて検討したい。
② 広域的な連携も必要だろう。

Q、実現に向かって進んでほしい!

現存している商業施設、観光施設も、連携するソフト事業を盛り込んでほしい。

→ 同じエリアの中で足を引っ張らないようにしなければならぬ。

EX) 木周りの里やアスモなどともすみ分けしながら、検討を深めたい。また、お知恵をお願いしたい。

→ 南砺市には、素晴らしい資源が非常に多い。互いに連携しながら、すすめていきたい。

Q、① 実現までのロードマップは? 住民の皆さんに(しかり)と示してほしい!

② 井波の独自性、市内8地域の良さを上手く活用してほしい。

→ ① 「作って終わり」になってしまわないように、井波の皆さんが「自分事」として、この施設をどうやって良いものにしていくか、と思えるような、組織や運営スタイルを考える必要がある。

「他人事じゃないよ」という仕組みを、他のスケジュールと同時進行で検討する必要があるだろう。

→ 井波の特異な面はグン! と伸ばすように取組んでいきたい。

→ 構想案

市 事業計画

サウンディング市場調査

地元との意見調整

丁寧に行いたい。



キャッチボールをするようなイメージ。

Q. 屋内野菜工場、養殖、既存住宅の活用など、基本構想と変えない範囲で、(アイデア)活用策を盛りこんでほしい。

→ 「アトリエ付き」と説明したが、自由に使ってほしい。

いざれ長く商売や中長期滞在に結びつけたい。

→ まずは、井波で商売、住みだ...という人材を育てたい。

→ サウンディング調査は、ベースとなる考えがあった上での調査になるのではないか、というイメージを持っている。

井波地域づくり協議会

FAX みなよいよい
82-3744

アンケートのご提出お待ちしております!